

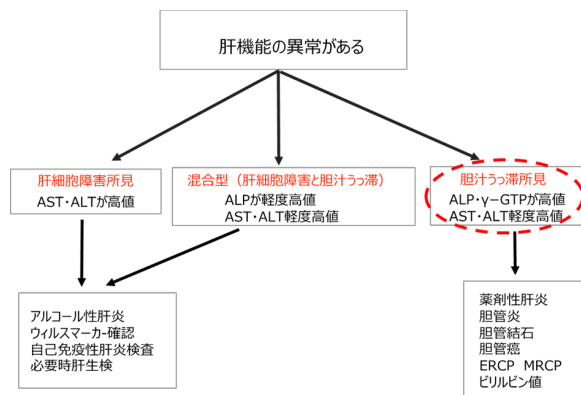
評価のポイント

CL-1.看護実践能力：ニーズをとらえる力 【19-1.2】検査データの判読②（生化学-part 1）

肺炎で内科入院中の70歳代の患者。入院して2ヶ月となる。昨夜より心窩部痛と39度台の発熱を認めた。採血のデータは下記である。このデータで判断されることはなにか。

	値	単位
WBC	18700	/ μ L
RBC	447	$\times 10^4$ / μ L
Hb	13	g/dL
Ht	39	%
MCV	85	fL
MCH	25	pg
MCHC	33	%
Ret	1	%
Plt	21	$\times 10^4$ / μ L
Lymph	18	%
Mono	2	%
Neut	80	%
Eos	0.1	%
Baso	0	%

	値	単位
AST	45	IU/L
ALT	63	IU/L
LDH	1089	IU/L
ALP	789	IU/L
γ GTP	382	IU/L
T-Bil	1.8	mg/dL
BUN	13	mg/dL
Cre	0.4	mg/dL
Amy	72	IU/L



図は配布資料15参照。

肝酵素の上昇がある。肝細胞に由来する酵素（AST・ALT）よりも胆管に由来する酵素の上昇が著しい。

結論

胆汁の鬱滞が考えられる。そのため、症状である、腹痛の有無や部位、痛みの程度と時間との関連を確認する。急激な高熱の有無を確認する。また、入院中の生活活動状況を確認する。